

平成29年3月19日

『平成29年度 指導部の目標と6人制の重点指導項目』

JVA国内事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目標

- (1) 審判員は、公平な立場で試合を運営し、ルールを正確に適用して、バレーボールの魅力を十分に引き出せるようなゲームマネジメントを行う。
- (2) 審判員は、メンタル面の強化を図り試合全体をコントロールできるように他の役員と協力してスムーズな試合運営を行う。
- (3) 審判員は、選手・チームスタッフから信頼されるように審判技術の向上を目指し、日々の審判技術の研鑽に努める。

2 重点指導項目

【主 審】

I 権限と責務

- (1) 不法な行為について(規則21)
 - ① 選手・チームスタッフの試合中の不法行為について毅然とした態度でルールを適用する。
 - ② 上記に関わる不法行為について理解する。
- (2) 権限について(規則23. 2. 1)

主審は、試合開始から終了までを主宰し、その試合の審判団と両チームのメンバーに対して最高の権限を持つ。

試合中、主審の決定は最終である。主審は、審判団の他のメンバーが下した判定が間違っていると確信したときは、無効にすることができる。

また任務を適切に遂行していない審判団のメンバーを交代させることもできる。

II 判定について

- (1) 不法な行為の判定

判定が出る前に自然発生的に発する言葉(イン・アウト、ボールコンタクト等)は、許される。ただし、以下のような行為に対しては毅然とした態度をとるべきである。

 - ① 主審の最終判定が出された後に判定に対して不満な態度を示してアピールした。このような行為に対しては、再発を防ぐために直ちにステージ1を与える。
 - ② 相手チームに向かって威嚇的な態度や声を出す行為にはステージ1を与える。
 - ③ 判定に対して、主副審、ラインジャッジに詰め寄るような態度(ベンチから立ち上がり前に出ながらアピール)で抗議した。このような行為に対しては、直接ステージ2を与えるべきである。
- (2) ハンドリング基準の確立について

各大会のクリニック等でハンドリング基準の確認を行う。すべての審判員が統一できるように努力する。(試合を通して、大会を通して)

 - ① 指を用いた2回目、3回目オーバーハンドパスの判定。ラリーを継続するという理由で、明らかな反則のハンドリング基準を下げてはならない。同様の理由でセットポイントやマッチポイントでの明らかな反則を見逃してはならない。
 - ② シングルハンドトスの反則の多くはキャッチの場合が多い。ただボールが回転したからといって反則にすべきではないが、反則がおこらないということではない。

- (3) ポジショナルフォルトの判定
サービスヒットよりかなり早く移動したり、初めからポジションを移動している等明らかなポジションの反則を見逃さない。試合の早い段階で判定をする。
- (4) サービス許可について
前のラリー終了から次のサービス許可までは、およそ8秒でホイッスルする。両チームの準備ができて、サーバーがボールを保持していれば直ちにサービス許可のホイッスルをする。
- (5) タッチネットについて
着地後であっても、明らかに次の動作でなくネットに触れれば反則となる。
- (6) 最終判定の出し方について
ボールコンタクトの有無、ライン判定等について、主審自身が判定に確信が持てない時に限り、判定を出す前に副審、ラインジャッジを呼んで確認する。判定を出した後、チームからのアピールで副審、ラインジャッジを呼び、その結果判定を覆すことは審判への信頼を失うことになる。

【副 審】

I 権限と責務

- (1) 不法な行為の判定
ラリー終了後の両チームの言動に注意をはらい、不法行為があれば直ちに主審に伝える。特にベンチからのアピール等に注意する。
- (2) ポジショナルフォルトの判定
サービスヒットよりかなり早く移動したり、初めからポジションを移動している等明らかなポジションの反則を見逃さない。
- (3) タッチネットについて
着地後であっても、明らかに次の動作でなくネットに触れれば反則となる。ネット付近に選手がいれば、副審はボールを追わずに目を残し判定をする。
- (4) サービスヒット後について
サービスヒット後、副審はサービスボールが副審側の許容空間外側を通過するかあるいはアンテナに触れるかを判定するために素早くネット上方に視線を移す。

II 試合中断の手続きについて

- (1) 選手交代
サブスティテューションの手順及び取扱いを十分理解し、複数の交代、両チーム同時のケースについてスムーズに行えるようにする。
- (2) タイムアウト、テクニカルタイムアウト
 - ① タイムアウトとテクニカルタイムアウト中とその後：
 - ・ 中断の許可後、ベンチに下がるときにベンチ近くまで下がるようにコントロールし、モッパがフロントゾーンを折り返すまで確認し、主審とアイコンタクトを取る。
 - ・ 記録が正確に記載されているか、また中断の要求時のリベロの位置を確認する。
 - ・ 支柱を背にして両ベンチが見えるように立ち、中断終了前にコートに入らないようにコントロールする。(ユニフォームが出ている選手がいれば、入れるように注意する等)
 - ② タイムアウト後、コートに入ることが遅くなるような場合、ホイッスルとシグナルで促し繰り返す場合は何回もホイッスルして促さずに、遅延の罰則を適用するよう進言する。

- ③ ゲームの流れを読み、チームの要求に速やかに対応する。
ワンラリー毎にベンチコントロールを行い、ブザーがあるときは、ブザーに頼り過ぎないようにする。
- (3) 最終セットのチェンジコート後、ラインアップシートで両チームのポジションを確認し、チェンジコート前の状態になっていることを、記録員と連携して確認する。
タイムアウト、選手交代およびリベロのリプレースメントは、チェンジコート後すべてを確認した後、許可する。

【記録員】

規則 25. 2 責務を十分理解し、自身の責務を遂行する。

- (1) プロトコール中に、両チームのメンバーを記録用紙で確認をする。
- (2) サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。
(J V I M Sがある場合は、その情報も参考にする)
- (3) サービス順の誤りが発生した時は競技を再開する際、副審に両チームの正しいポジションを正確に伝えられるようにする。
- (4) ブザーがある場合、セット間終了合図はブザーで合図する。
- (5) サブスティチューションは記録員の責務である。必ず記録員がブザーを鳴らし、落ち着いて記録する。
 - ① チームが複数の選手交代の要求をした場合は、最初に1度だけブザーを鳴らす。
 - ② 同時に両チームから選手交代の要求があった場合は、片方のチームの選手交代を完了させた後、再度ブザーを鳴らしてからもう一方のチームの選手交代を行う。
- (6) 最終結果 (RESULTS) の集計を素早く行い、キャプテンのサインを採録する。
(例：セット毎にメモ用紙に集計していく)
- (7) 記載ミスをした場合は、二重線で消す。主審と副審が確認したときに誤りがあったときは、記録員が修正する。

【アシスタントスコアラー】

規則 26. 2 の 責務を十分理解し、自身の責務を遂行する。
記録員と声を掛け合って、交代選手の番号や得点を確認し合う。

- (1) リベロのリプレースメントを正確に記録し、イリーガルリプレースメントの反則を理解し、ブザーを鳴らすタイミングに注意する。
- (2) タイムアウト、テクニカルタイムアウト中は、リベロの位置を副審に通告する。リベロが2人のチームの場合、リベロがコートにいるときは番号も副審に通告する。
- (3) スコアボードの得点が正しいか確認する。
- (4) テクニカルタイムアウトの開始と終了を通告する。
- (5) 予備の公式記録用紙を準備し、必要があれば記録員に渡す。

【ラインジャッジ】

- (1) 担当するラインの判定を確実に行う。ボールコンタクトは、確実に見えた場合限りフラッグシグナルを示す。
- (2) アンテナに関わる判定方法やボールを取り戻す場合の判定方法を確認し、試合に臨む。
- (3) 選手がアンテナに触れた場合、フラッグを振りその選手を指す。